

本證寺(国史跡)(安城市野寺町野寺)(城郭伽藍)

本證寺（ほんしょうじ）は愛知県安城市野寺町にある真宗大谷派の寺院。山号は雲龍山。野寺御本坊とも呼ばれる。

概要

安城市南東部に位置し、周囲には善證寺・宗玄寺・金襲寺などの寺院がある。

上宮寺、勝鬘寺と並んで三河触頭三ヶ寺として知られ、戦国時代には三河一向一揆の拠点となった。こうした経緯から、鼓楼や土塁を備え、水濠に囲まれた城郭寺院（城郭伽藍）となっている。また、書院は親鸞が泊まった際に、天井裏まで雨漏りがしていたのに、部屋までは漏らなかったという伝承が残されており、「雨もり御殿」と言われている。

城郭関係書籍などでは、本證寺城として言及されることもある。「本証寺」「本証寺城」と表記されることもあるが、寺号の表記は本證寺が正式である。寺域は約 33,000m²である。

歴史

1206 年（建永元年）頃、親鸞門侶の慶円により開創。

三河国の一向宗の 3 か寺として、『三州一向宗乱記』には「当国碧海郡野寺村の本證寺と申すは、一向宗の小本寺にて、守護不入の道場、当国三箇寺の其の一箇寺なり」と記載されている。

1549 年（天文 18 年）の門徒連判状に武士門徒 115 名が署名しているなど、その当時における本證寺門徒団の三河地方での一大勢力ぶりが窺える。

三河一向一揆では、上宮寺、勝鬘寺と並んで一揆の拠点となった。『三河物語』にも「野寺之寺内、土呂・鍼崎・野寺・佐々き（三河四ヶ寺・一向一揆の主力）」などとして登場する。一向一揆は 1564 年の小川の戦いで敗れ、当主の空誓上人は逃走したため、一時は廃寺となったが、1663 年（寛文 3 年）までには再興したとされている。

江戸時代になると、徳川家綱の将軍就任にあわせて拝謁。以降、江戸幕府と尾張徳川家の代替わりごとに拝謁を行っていたことから、他の三か寺と同様に両家と密接な関係を持っていたことが分かる。

重要文化財（国指定）

- ・ 絹本著色善光寺如来絵伝 4 幅 - 鎌倉時代
- ・ 絹本著色聖徳太子絵伝 10 幅 - 鎌倉時代

史跡（国指定）

- ・ 本證寺境内 - 境内は城郭伽藍の遺構が良好に保存されている。

Wikipedia による



堀と鐘楼



本 堂